女川原発２号機の再稼働を止める

みやぎ脱原発・風の会　舘脇章宏

年が明けてすぐ、東北電力は、女川原発２号機の再稼働の時期を今年５月から数ヶ月延期すると突如発表した。これで延期は ７ 回目だ。「火災防護対策工事」をその理由としているが、そればかりとは思えない。

能登半島地震は、改めて 13 年前の東日本大震災を思い起こさせた。女川原発はこの震災で大きな被害を受けた「被災原発」であり、また福島原発と同じ古い型（マーク１）である。22 年３月の地震では震度５強にもかかわらず、１号機のクレーンの強固な台座に数カ所のひびが入ったが、今回の能登半島地震のように、想定外の地震で思いも寄らない被害が発生する可能性は少なくない。

また、現在仙台高裁で闘われている再稼働差し止め裁判では「避難計画」の実効性が最大の争点だが、実際に複合災害が起きれば、逃げることも屋内退避もできずに被ばくしてしまうことが今回の地震で改めて明らかになった。

一方 １ 月 22 日には、村井宮城県知事に対し、「地元同意を取り消し、県独自に安全性を検討する場の設置、避難計画の再検討を求める」要望書を提出し、今回の地震が明らかにした課題を解決することなしに再稼働を進めることは許されないと訴えた。

そして私たちは３月 23 日、宮城県の市民団体と東京の 1000 万人アクションの共催で、仙台市勾当台公園市民広場において、過去最大の規模を目標に「STOP！女川原発再稼働　さようなら原発全国集会 in 宮城」と銘打った集会を行う。ぜひ多くの方にご参加頂き、ともに再稼働阻止の巨大なうねりを作り出していくことを強く訴える。ともに闘おう！